

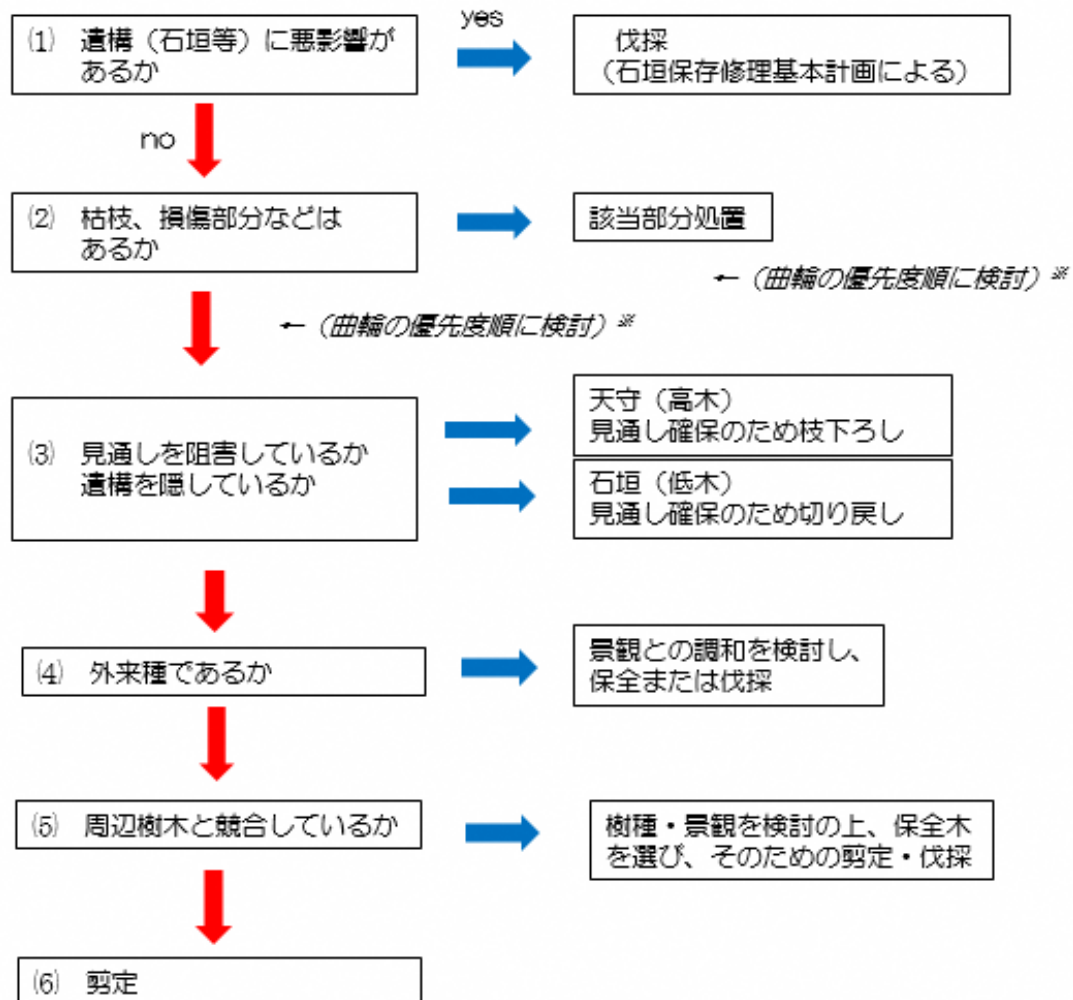
7. 植栽管理の実施方法

7-1 樹木の伐採・剪定

樹木の伐採、剪定の実施、植栽管理基本方針に則り大きく3つの視点（①石垣の保存②景観の保全③利用者の安全確保）を前提として、以下のフローで行う。なお、主要な樹木における維持管理の内容については次項で取りまとめを行う。

石垣毀損樹木、危険木は直ちに対処するとともに、保護を図る必要のある樹木については、引き続き樹勢の維持に努め、史跡景観を向上させる修景樹木とし、樹木自体を鑑賞の対象としての価値を高めるため、周辺の樹木は適宜整理する。

＜ 伐採・剪定の実施フロー図 ＞



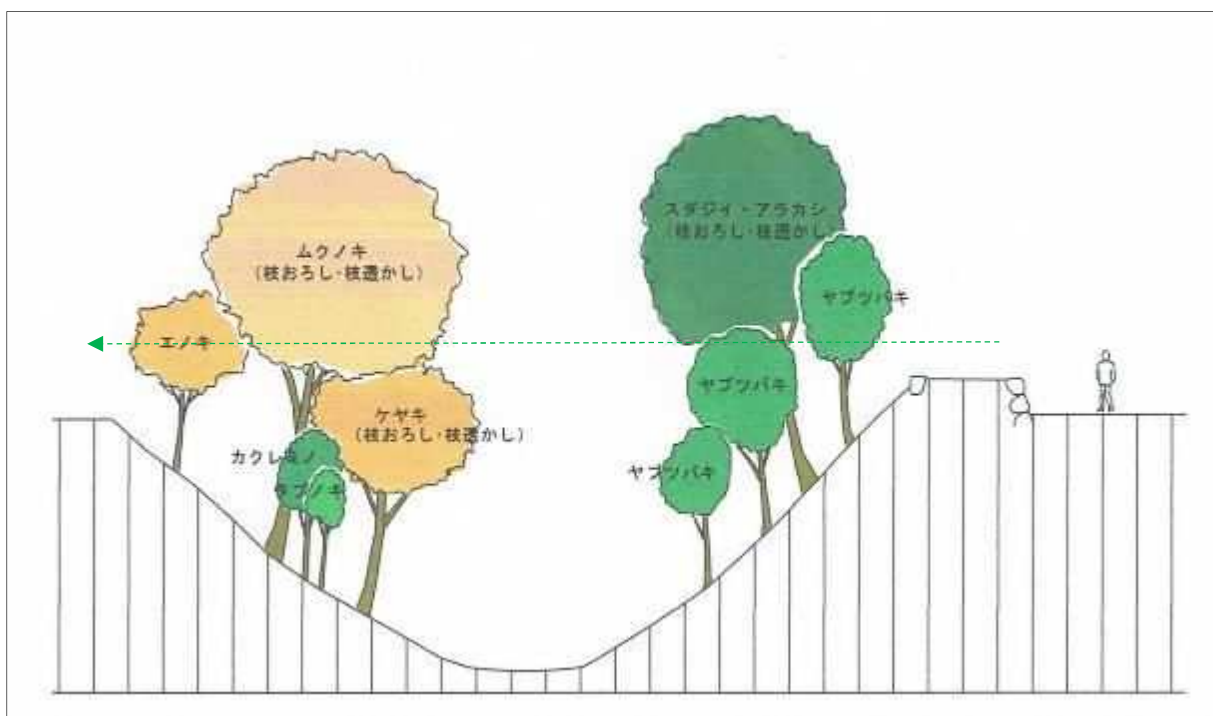
7-2 樹木管理の内容

(1) 樹林地管理（清海堀等の中高木）

周辺樹木と競合している樹林地は、日常の定期的な点検により倒木や枯損木、枯れ枝、病虫害などの有無の確認し、問題があれば早急に対処する。鬱蒼とした樹林は、明るくて安全な樹林となるように陽の光を積極的に取り込むような剪定し、それによって土壌が守られることが望ましい。剪定方法として、樹形を考慮しながら、枝おろしや枝透かし(枝抜き)などを行う。

枝おろし-----樹形を考慮しながら、のこぎり等を用いて太枝を付け根から切り落とす。

枝透かし-----樹冠から飛び出した徒長枝、樹形を構成する主枝に逆らって伸びた枝や絡みついた枝など、樹形を乱す枝を透かすように付け根から切り取る。



清海堀 樹林地模式図

(2) 高木管理

当公園を代表する重要な樹種について数種を取り上げ管理内容や手法について検討する。

①クロマツ

当公園のクロマツには、歴史的景観を構成する自然樹形の大木と、人為的に樹形を作り出した仕立物のクロマツの2タイプがある。

1) 自然樹形のクロマツ

主に本丸、持仏堂曲輪、風呂谷曲輪、坂谷曲輪に存在する自然樹形のクロマツの大木は歴史的景観を構成する重要な樹木であり、これを良好に維持するためには、日常の定期的な点検が欠かせない。その状況によっては土壌環境の改善、踏圧の軽減、病虫害の防除など今後も適切な管理を必要とする。

定期的な剪定などは行わず、枯れ枝や不良枝などの除去など、利用者の安全を確保するための管理を行う。

踏圧軽減のための方策例

- ・簡素な柵の設置
- ・歩行園路の明確化
- ・木道デッキ化



本丸のクロマツ大木と柵とコモ巻



本丸のクロマツと園路



坂谷曲輪のクロマツと園路

2) 仕立物のクロマツ

国道 1 号線からの入口付近（大手門付近）及び二の丸広場、日本庭園にある、人為的に樹形を作り出した観賞用のクロマツである。

仕立物のクロマツは、従来のマツの剪定方法である春の「みどり摘み」秋から冬に行う「もみあげ」などの手法を基本とする整姿剪定を定期的に行う。



北の入口正面のクロマツ



二の丸広場のクロマツ

②イチョウ

イチョウは中国原産とされているが、今では日本古来の木として定着している。病虫害も極めて少なく、管理も比較的容易で、防火樹としての効果も高いと言われている。

坂谷曲輪の南の龍城堀に面した広場のイチョウは自然樹形の美しさが際立っていて、特に剪定の必要はなく、利用者の安全確保のための定期的な点検を行う。

二の丸の西の石垣下周辺のイチョウ群は土塁に影響を与えていることから定期的な点検が必要である。



坂谷曲輪南端のイチョウ広場



二の丸の西の土塁のイチョウ群

二の丸のからくり時計の背後に立つイチョウの大木は、樹勢がやや不良であるため樹勢回復に努める。樹勢回復のためには、土壌環境の改善や根回りの保護、踏圧の軽減が必要である。



二の丸のイチョウ



園路が迫り、機器が置かれている

菅生曲輪の多目的広場南側のイチョウ並木は自然樹形で保つのが望ましいが、近隣住民の生活や利用者の安全を優先し、現在は強めの剪定をして、景観的には残念な状況にある。樹勢も良好とは言えず、土壌環境の改善や踏圧の軽減に対する方策の検討が必要である。まずは定期的な点検をして注意深く見守り景観や管理上の影響を勘案適正に管理していく。



住区側車道から見たイチョウ並木



車道と歩道に挟まれたイチョウ

イチョウの黄葉のころは美しく見事であるが、同時に、落下したギンナンの悪臭があり、イチョウが敬遠される大きな問題点となっている。国土交通省関東地方整備局の相武国道事務所が開催している「ギンナン拾い」のイベントは前向きな良い一例である。

記者発表資料

ギンナン拾いませんか
～ 道路維持管理の効率化にご協力ください ～

今年も相武国道事務所では、秋の風物詩となっている甲州街道（国道20号）の「ギンナン拾い」を開催します。

甲州街道の八王子地区には、多摩御陵の造営を記念して昭和4年に植えられた約750本のイチョウがあり、八王子市の天然記念物にも指定されております。

毎年秋になると、イチョウ並木から大量の落葉や落実等が発生しており、道路を良好かつ安全な状態に維持するため、多くの清掃が必要となっております。

「ギンナン拾い」は道路の清掃やイチョウ並木の剪定等で事前に集めたギンナンの実を道路利用者や地域の皆様方にお持ち帰り頂くことにより、歴史ある甲州街道の道路景観に親しみながら秋の気配を感じて頂くとともに、道路の維持管理の効率化（ギンナンの処分量低減）にご協力頂くもので、平成6年度より毎年実施しており、今年で26回目となります。

また、「ギンナン拾い」にあわせて、イチョウ並木の道路清掃に関するパネル等の展示を行います。

1. 日 時：令和 元年10月27日（日）

10時～11時（小雨決行）

※ギンナンが無くなり次第終了します。

2. 場 所：東浅川保健福祉センター第2駐車場

（八王子市 東浅川町120番）

【国道20号多摩御陵入口交差点南側（下り線側）】

3. 注意事項：①手袋や持ち帰り用の袋は各自ご用意下さい。

②会場に駐車場はありません。

③事前の申し込み・当日の受付は不要です。直接現地にお越しください。（無料）

④雨天等により中止の場合は、当日の午前8時30分以降に以下のホームページにてご案内します。

《相武国道事務所HP》<http://www.ktr.mlit.go.jp/sobu/index.htm>

4. 取 材：当日は自由に取材が可能です。

5. 参 考：平成30年度は台風の影響によるギンナンの実の落下のため中止。

平成29年度は約40名が参加。



《平成29年度の実施状況》

*台風19号の風雨の影響で大半のギンナンの実が落下してしまい中止となった。

③ソメイヨシノ

本市を代表した観光資源であるサクラの維持管理について、樹勢回復による長寿命化や更新等、遺構保存に配慮し景観的価値の向上を図る。

主に、二の丸の北（国道 1 号線沿い）の石垣と白壁に囲まれたソメイヨシノ、坂谷曲輪と白山曲輪と総構えの伊賀川沿いのソメイヨシノ、菅生曲輪の菅生川（乙川）堤防沿いのソメイヨシノが親しまれている。

二の丸の北（国道 1 号線沿い）のソメイヨシノ群は樹形、樹勢とも良好であり、定期点検を行うことによって処置が必要な場合は迅速に対処し、良い状態を維持する。

坂谷曲輪と白山曲輪における伊賀川沿いでのソメイヨシノは比較的若いソメイヨシノが見られるが、総構えでは老齢化が進み植栽密度も濃いと思われる。また西側の道路に枝が張り出し通行に支障が出ることも考えられる。

植栽間隔が狭い場合は樹形を見ながら枝おろしをするか、場合によっては伐採することも検討する。通行に支障がある箇所も同様である。

下の写真の場合は 3 本のソメイヨシノが近接しているが、橋のたもとでボリューム感を出したいところでもあるため、ここでは併せて 1 本の樹冠のものとして捉え管理をする。



竹千代橋右岸の混み合ったソメイヨシノ

道路から見た同じソメイヨシノ

次の写真の場合は、左の 2 本のソメイヨシノが近接して枝が絡み合っている状態にあり、その対処として、互いの樹形を見ながら左の木の枝を切断し、切り口に防腐剤を塗布する。

混み合ったからみ枝



からみ枝の切断位置



菅生曲輪の菅生川（乙川）堤防沿いのソメイヨシノは、園路の北側のものが揃って龍城堀側（城南亭側）に傾き、植栽間隔も狭いが、面白い景と捉えることもできる。人止柵による踏圧への配慮もあり、今後は定期点検により出来るだけ樹勢の維持回復に努める。



城南亭を覗くソメイヨシノ



園路舗装と人止柵

利用者の安全確保のために枯れ枝や、折れ枝等を適切に除去する。また、からみ枝や樹形を乱す枝等には枝おろしや枝透かし剪定を施し、日照と風通しを良くする。枝の切り口には必ず防腐処理をする。今回は天狗巢病の枝は見られなかったが、定期点検で見つけた際にはその枝を焼却処分する。寄生植物のノキシノブや、ウメノキゴケが見られたが、過剰な繁茂には注意する。

④イロハモミジ

当公園の景観を構成するのに欠かせない樹種である。園内の広い範囲にわたって植栽されており、特に石垣や堀の周辺に多く見られ、紅葉シーズンには際立つ存在となっている。

石垣の天端に生えているイロハモミジは石垣保護のため伐採を行う。その他のイロハモミジは自然樹形が美しいため、樹木自体を鑑賞の対象としての価値を高めていく。周辺樹木と競合しているイロハモミジは、競合している樹種の枝下ろしなどの剪定を行いイロハモミジの自然樹形を継続させ景観的価値の向上を図る。



自然樹形のイロハモミジ



龍城堀の護岸石垣のイロハモミジ

⑤メタセコイア

二の丸と隠居曲輪にある外来種であるメタセコイアは、史跡としての歴史性にそぐわないため伐採の対象にあるが、多目的広場、駐車場方向からのスカイラインを形成する樹木であることから、各曲輪の整備時まで保存の方向で維持していく。



多目的広場方向から見たメタセコイア



隠居曲輪のメタセコイア

(3) 低木管理

園内の低木を種類別に見るとツツジ類（ヒラドツツジ、リュウキュウツツジ等）が全体の半数を占めている。広場周辺に寄せ植えされている低木は、セキュリティの観点から定期的な刈込みが必要であり花芽の分化時期に配慮しながら行う。また園路から石垣への見通しが悪い中低木については、以下のような手法で石垣の顕在化を図る。



持仏堂曲輪腰巻石垣が見えるようにアオキ(左)やツバキ(右)の下枝を払う



右に龍城堀石垣が見えるようにツツジを剪定する（樹高 1.1m 以下）

(4) 定期点検

当公園では重要な位置を占めるクロマツやソメイヨシノ、イロハモミジなどを代表として多数の樹木が存在するが、それらが出来るだけ健全な状態を保ち続けるため、及び利用者の安全が確保されるためには、日常の定期点検を丁寧に行うことが必要となる。定期点検は月に 1 回以上行うことが望ましい。

点検項目

- ・ 枯れ枝や折れ枝はないか
- ・ 樹勢は良好か
(梢端・枝端の枯れ、葉の密度、葉の萎れ、葉色など)
- ・ 日照は十分か
- ・ 風通しは十分か
(枝葉の過度の繁茂や周囲の樹木による)
- ・ 幹や根元、大枝などに腐朽や空洞が見られないか
- ・ 病虫害が発生していないか
- ・ 踏圧の被害はないか

点検の際に、不良の兆候が少しでも見られたら、その状態により直ちに対処、あるいは、その後も重点的に観察の上、より状況が悪化していると判断された場合に対処する。

定期点検の他に、異常気温、異常乾燥、台風、集中豪雨、地震発生時、病虫害の異常発生時等には、必要に応じて特別点検を実施する。

(5) 土壌調査

樹木の良好な生育には、適正な土壌条件が必要である。樹木の生育状況を把握するため、必要に応じて植栽地を試掘し、その断面について層位的に土壌の構成、固さ、通気性、根の分布状態を観察する。また、以下の項目について適宜調査する。生育阻害が考えられる場合は土壌改良を検討する。

- * 保水性(適当な水分を保っているか)
- * 通気性
- * 透水性(水はけ)
- * 保肥力
- * pH(水素イオン濃度指数)

土壌調査を実施するにあたり、掘削する際には、文化財担当者の立ち合いの上で実施する。

(6) 樹勢の回復

樹木をいつも健全な状態で保つことを目標に植栽管理を行うが、樹木の生育状況が悪化した場合には、樹木医等専門家の助言、指導もふまえて、樹勢の回復を図る。

樹勢の回復方法としては以下の内容がある。土壌改良などについては、文化財担当者の立ち合いの上で実施する。

* 土壌改良

- ・ 根元の土に生育を阻害する要因を緩和する土壌改良材(パーライト、堆肥等)を混ぜて、通気性や保水性等の良い土壌に改良する。

* 剪定

- ・ 繁茂し密生した樹木は剪定をし、上から覆っている樹木があれば枝おろしをして、日当たりや風通しが良くなるように生育環境を改善する。

* 病虫害対処

- ・ 病虫害等が発生した場合は、適宜消毒や捕殺、患部の除去などを行う。
-

＊その他

- ・踏圧の被害を受けないように、可能であれば歩道を遠ざけることや根回りを縁石や柵で保護することも検討する。

(7) 樹木の更新

枯損等により伐採した際には、景観等に配慮し適切な樹種による更新を検討する。

7-3 事業計画

植栽管理の事業計画について、短期・中長期に分けて以下に整理する。

〈短期〉

石垣を棄損している樹木については、岡崎城跡石垣保存修理基本計画に基づき伐採する。

保全すべき樹木に対して、樹勢・土壌調査、樹勢回復処置を実施する。

〈中長期〉

周遊動線上にある史跡の顕在化を図るために、内郭1ゾーン（本丸→持仏堂曲輪→風呂谷曲輪→坂谷曲輪）内郭2ゾーン（二の丸→隠居曲輪→菅生曲輪→東曲輪→白山曲輪→総構え）の順に伐採、剪定を行っていく。

〈その他〉

短期、中長期で示した伐採、剪定とは別に、指定管理者等の日常的な植栽維持管理により、枯損木の伐採や日常の定期点検を行う。